

箱根山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続＞

箱根山では火山活動が活発な状態で経過しています。

4 月 26 日以降増加している火山性地震は引き続き多い状態が継続しています。今後、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

本日（8 日）実施した現地調査では、大涌谷温泉供給施設で蒸気が引き続き勢いよく噴出しているのを確認しています。

大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1、図 2－①、図 6、図 7）

本日（8 日）実施した現地調査では、大涌谷温泉供給施設で蒸気が引き続き勢いよく噴出しているのを確認しました。

宮城野遠望カメラ（大涌谷の東北東約 3 km）では、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは概ね 100m で経過しています。

・地震や微動の発生状況（図 2－②、図 3）

4 月 26 日以降増加している火山性地震は多い状態が継続しています。5 日には箱根町湯本で震度 1 を観測する地震が 3 回発生しましたが、その後は震度 1 以上を観測する地震は発生していません。

低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 2－③～⑤、図 4、図 5、図 8）

気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計¹⁾（図は気象庁）および気象庁の湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計²⁾では、今回の火山活動に関連するとみられる変動が観測されています。

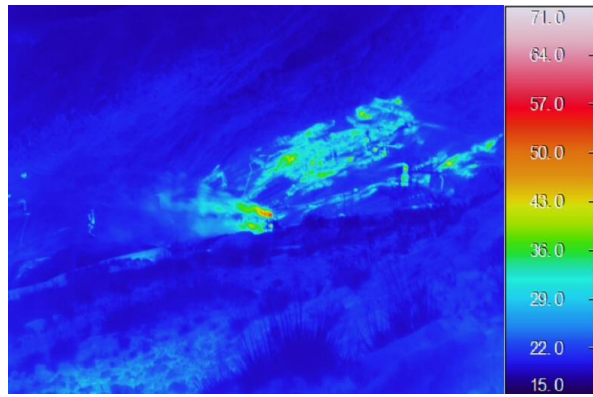
1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 マイクロラジアンは 1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。

2) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等で変化が観測されることがあります。

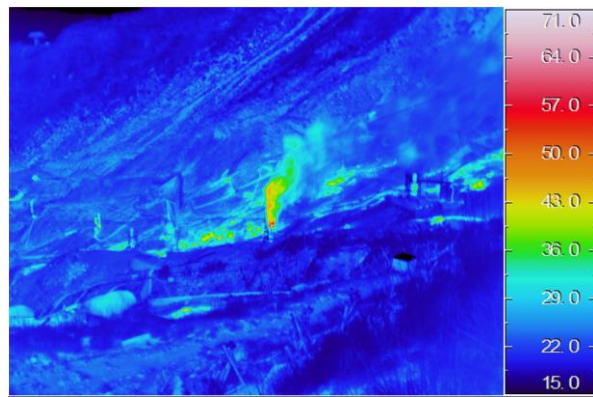
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータを利用して作成しています。

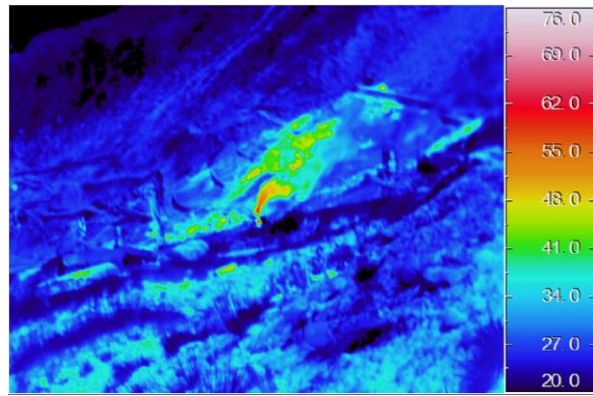
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政区・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



2015 年 5 月 4 日 09 時 03 分 撮影



2015 年 5 月 5 日 15 時 11 分 撮影



2015 年 5 月 8 日 11 時 23 分 撮影

図 1 箱根山 大涌谷周辺の状況及び地表面温度分布

中央に見える温泉供給施設から引き続き蒸気が勢いよく吹き出しています。

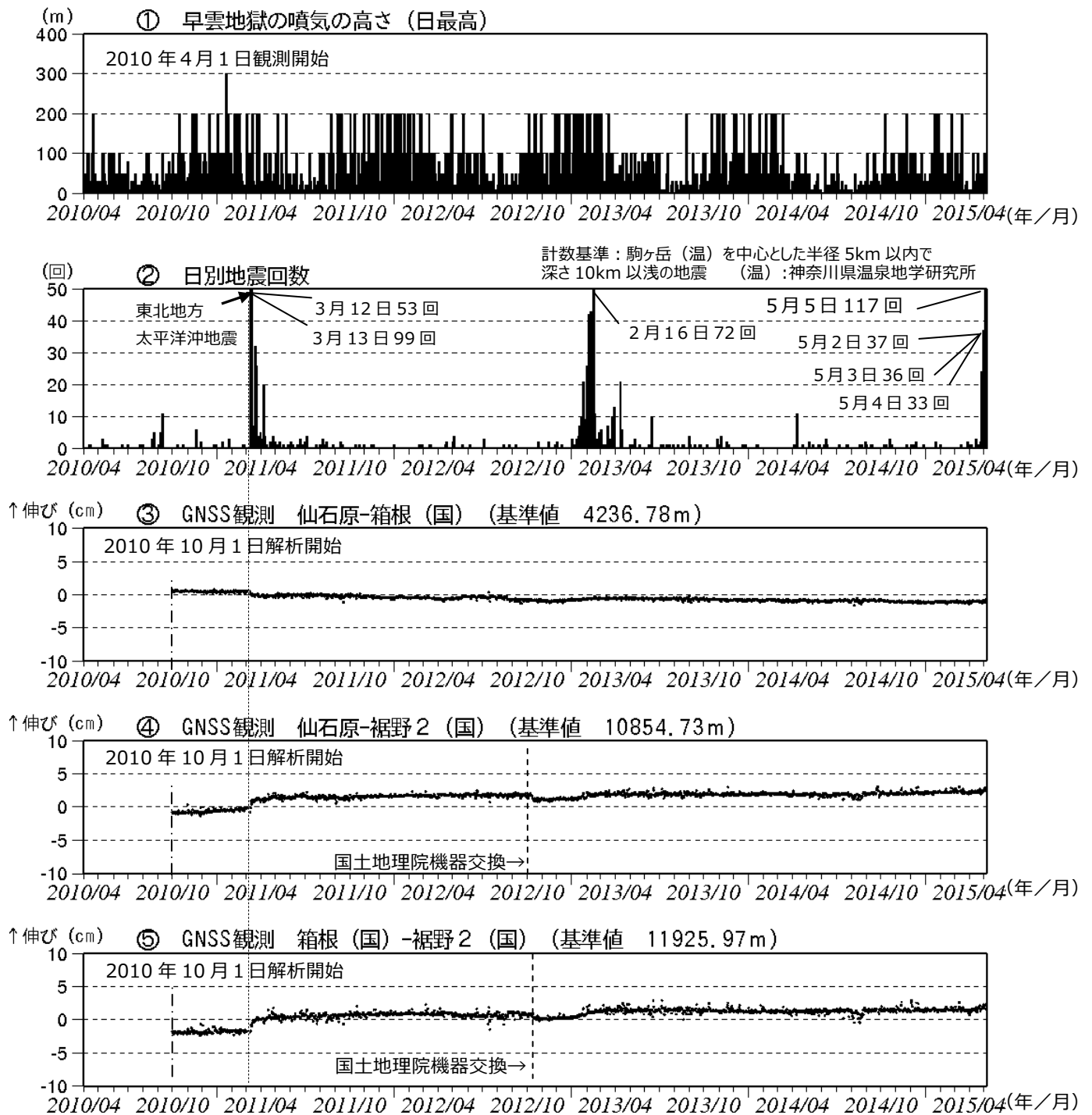


図 2 箱根山 火山活動経過図（2010 年 4 月 1 日～2015 年 5 月 7 日）

① 定時観測（09 時・15 時）による噴気の高さ（日最高）

② 箱根山付近で発生した日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、箱根山付近で地震活動が活発となりました。その後、地震活動は低下していましたが、2013 年 1 月中旬から 2 月中旬にかけて駒ヶ岳から仙石原付近の浅部で地震が増加しました。2015 年 4 月 26 日頃から大涌谷付近から神山付近の浅部で地震が増加しています。2015 年 5 月 8 日は 17 時までに 59 回観測しています。

③～⑤ GNSS 観測による基線長変化（国）：国土地理院

④⑤の基線には、東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）に伴うステップ状の変化が見られます。また、2012 年末頃から 2013 年 2 月下旬頃にかけて、わずかな伸びの傾向が見られ

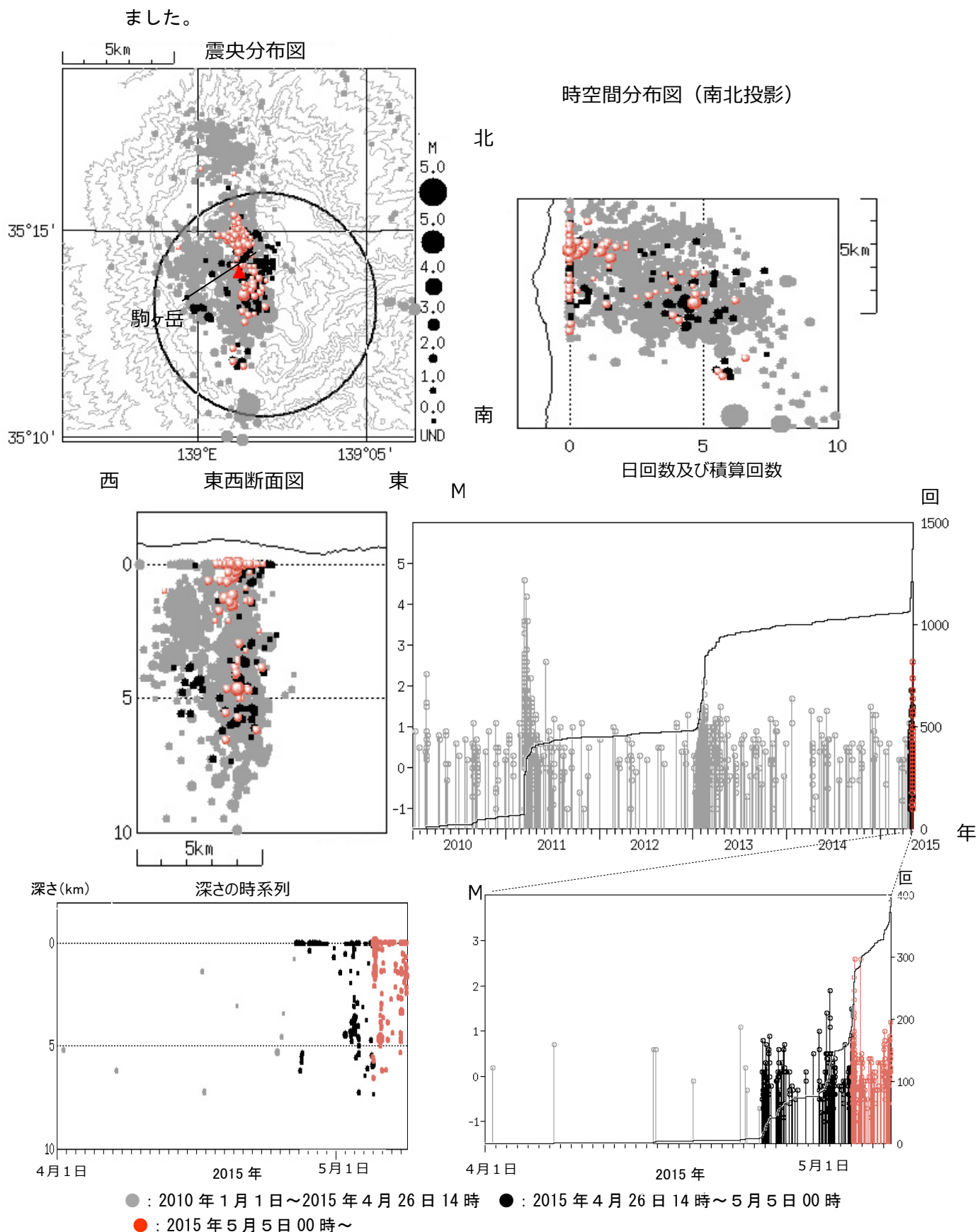


図 3 箱根山 広域地震観測網による山体周辺の震源分布図(2010 年 1 月 1 日～2015 年 5 月 8 日 13 時)
 M (マグニチュード) は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

震源分布図の円は、駒ヶ岳観測点（温）を中心とした半径 5 km の範囲を示しています。

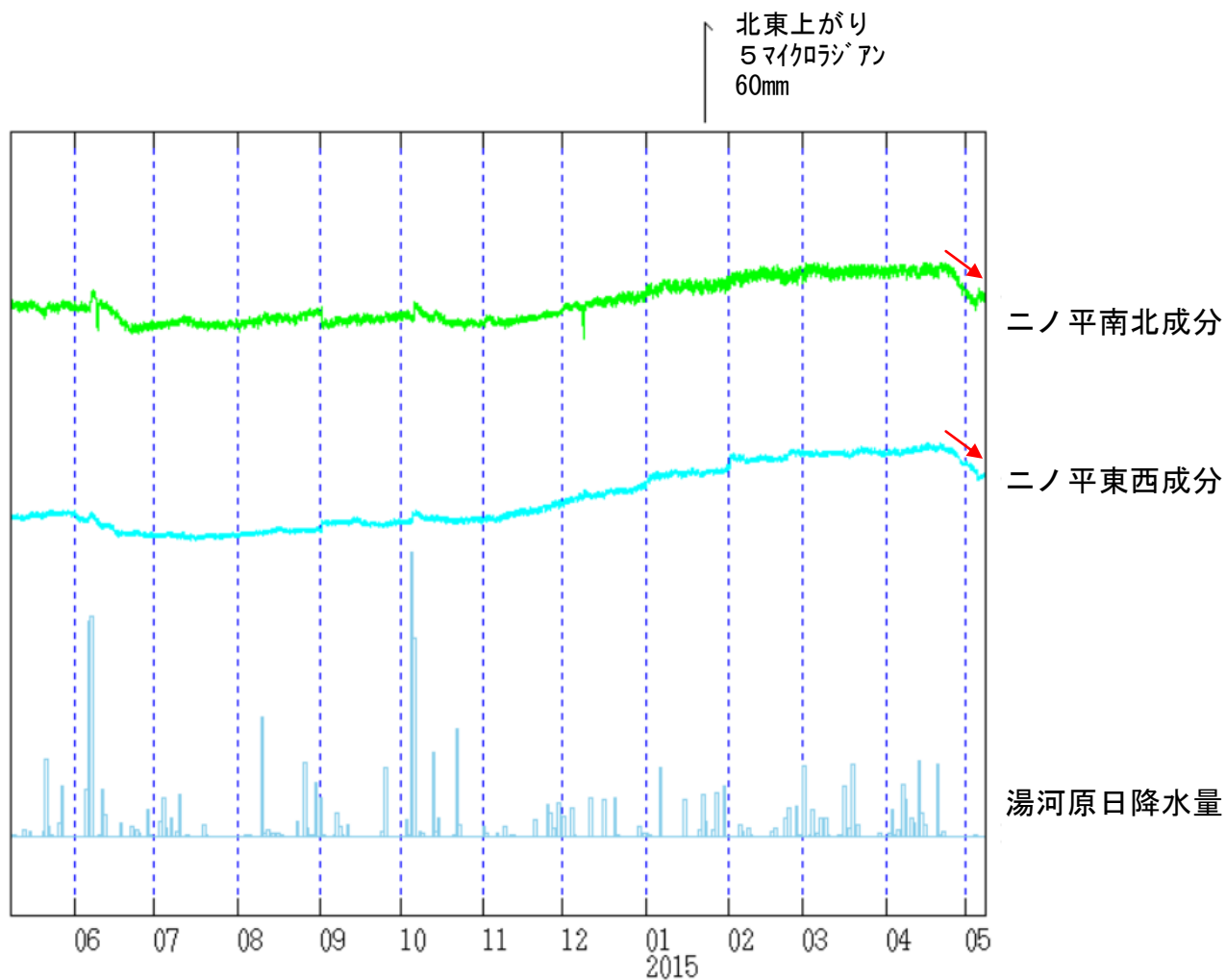


図 4 箱根山 気象庁ニの平観測点傾斜計による変化図
(2014 年 5 月 8 日 15 時～2015 年 5 月 8 日 15 時)

* 赤印がこの火山活動に関連するとみられる南西上りの変動を示しています。

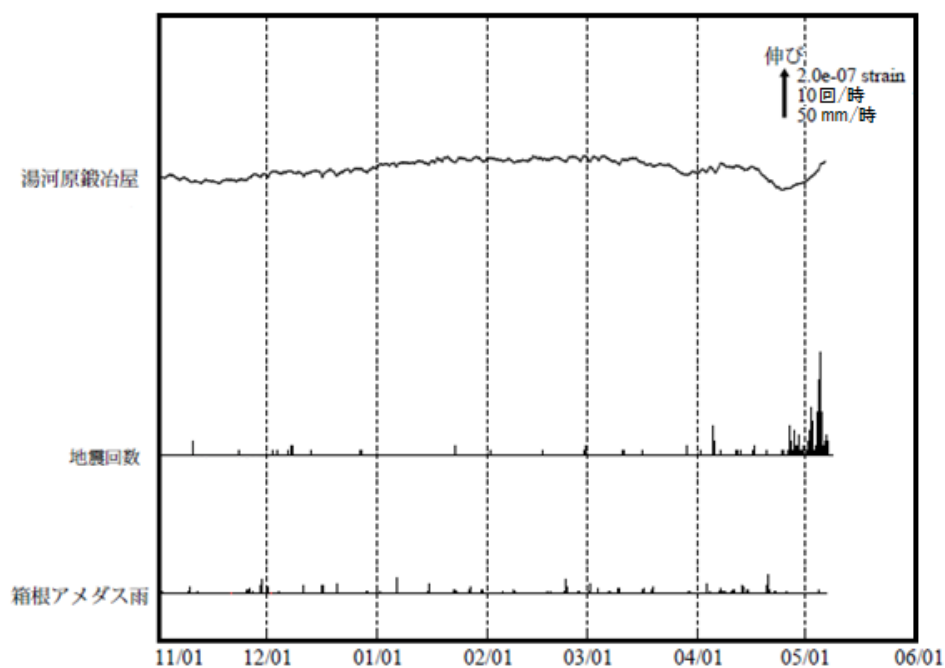


図 5 湯河原鍛冶屋観測点におけるひずみ変化と箱根山地震活動の推移
(2014 年 11 月 1 日～2015 年 5 月 7 日)



図 6 箱根山 早雲地獄の状況

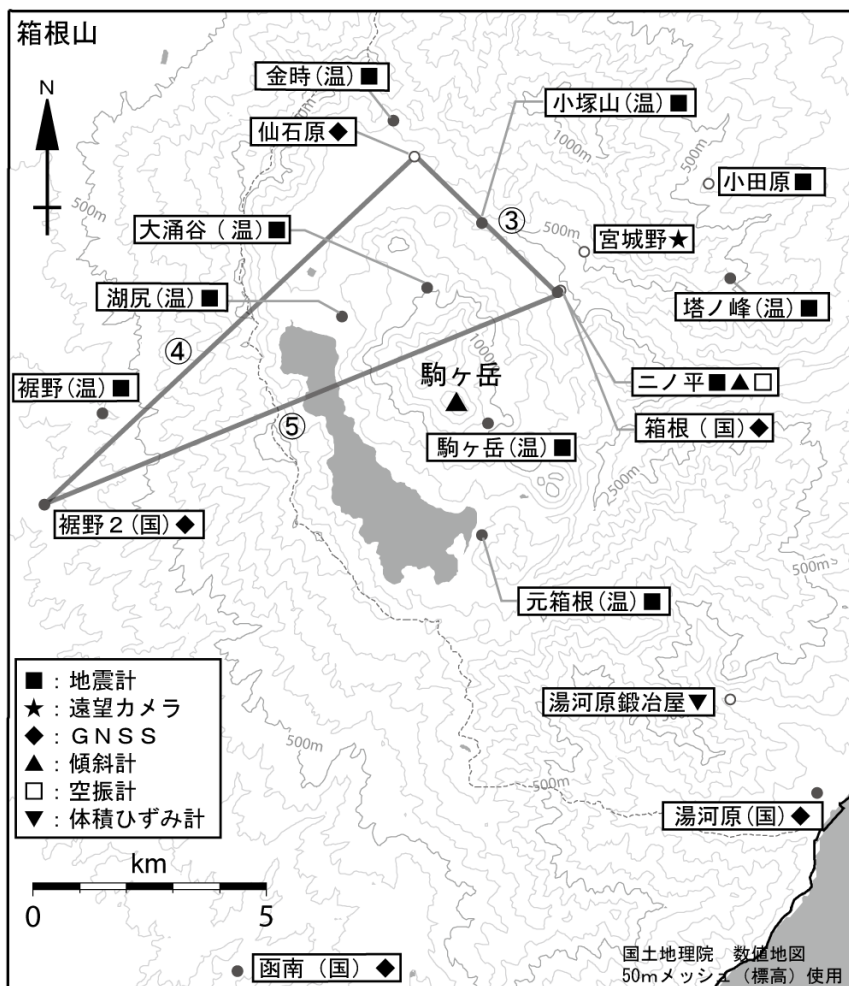
（5 月 7 日、宮城野遠望カメラによる）

白円内は早雲地獄からの噴気の状況。
気象庁の宮城野カメラでは、大涌谷からの噴気は高さ 100m 以上の場合に観測されます。



図 7 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図

赤丸は宮城野遠望カメラ設置場所



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所

図 8 箱根山 観測点配置図

GNSS 基線③～⑤は図 2 の③～⑤に対応しています。